



受講生のみなさんと入所者の谷さん。谷さんの表現、読み取れましたか？

5月22日(土)、平成22年度ふくろう手話教室が開講しました。

昨年度から引き続き受講してくださる方が4名、初めての方が3名、計7名で初日はスタートしました。次回からは更に4名の新受講生が加わる予定です。こんなにたくさんの方にお申し込みいただき、本当にありがとうございます。

手話の勉強を始めるきっかけは、みなさんそれぞれです。「参加して良かったね、楽しかったね」「手話って本当に素敵な言葉だね」と思っていただけ

☆ふくろう手話教室開講☆

ふくろう新聞

<発行> ホームの郷会
 特別養護老人委員
 淡路市広報
 洲本市中川原町
 中川原28番地1
 TEL: 0799-25-8550
 FAX: 0799-25-8551

六月に入り、淡路ふくろうの郷の地元、中川原町では田植えが一斉に始まり、田園風景が一面に広がりました。夜にはカエルの鳴き声が響き渡り、ちらほら虫も見えま

す。梅雨には田舎の風景です。都会にはない田舎の風景です。梅雨に入ると体調も崩しやすくなり、みなさん、十分注意しましょう。



ふくろう手話教室の講訓 「のんびり楽しく」

う、私たちも頑張りたいと思います。

これから一年間、よろしくお祈りします。

★次回の手話教室
 7月10日(土)、
 午後1時30分
 (6月は農繁期のため、お休みです)

みんなで淡路島おいしいもの巡り

おいしいね☆



淡路フルーツ農園でイチゴ狩り(淡路市) ▲



海が見えるカフェで語りました(洲本市厚浜)

風薫る5月、みんなで施設を飛び出し、いつもとは違う空気を楽しんできました。

普段の生活では見られない表情、喜び、食欲と、行く先々で皆さんの新たな一面を見ることができました。(・:神代)

▼ 回転寿司



「あれ食べる?」「いいねえ」
 (南あわじ市)



こしがあったね(淡路市)

退所者紹介

ふくしま とよこ

福島豊子さん



福島さんとシロ
(シロは白猫)

福島さんは淡路ふくろうの郷が開所してすぐの平成18年4月3日に愛猫のシロと共に入所されました。昭和5年3月2日生まれ、奄美大島出身の80歳です。

淡路ふくろうの郷での4年間が福島さんの心を大きくふくらませたようです。6月1日、福島さんは退所されました。

猫のシロ(み)と福島さんについて、少しご紹介いたします。

シロはあの阪神淡路大震災の2ヶ月後に福島さんのところにやって来ました。(ふくろうの郷に来た時は11歳のおじいさん猫で

すね)「子猫の時からシロは表情豊かで、私の言うこともちやんと理解して、ホントに賢い猫だったわ」「神戸でろうあ者大会が開かれる日の朝、シロが前足で私をトントンと起こしてくれました。おかげで、寝過ぎずに済んだことがあったのよ」福島さんは懐かしそうに話してくれました。

しかし、健康診断の結果、猫によくある腎臓病を患っていることが分かりました。車で20分の動物病院に1週間に2〜3回通院する日々が始まり、職員も付添いました。職員が無理な時は淡路聴覚障害者センターに通訳依頼しました。

平成19年1月にシロは亡くなり、今はふくろうの郷の裏山で静かに眠っています。

淡路ふくろうの郷に入所して4年。手話が普通に飛び交い、普通に通じる

環境。おいしい食事、たくさん仲間、たくさん楽しい行事(社会参加)、福島さんの小さくしぼんでしまった心は、また大きくふわふわにふくらみました。「頑張ってみようかな」「いろんなことに挑戦してみようかな」、そう思い始めた福島さんは、ひようご聴覚障害者介護支援センターの援助を受け、JR兵庫駅近くの私営アパートに部屋を借りました。(そこ



6月1日、福島さんの新しい人生への挑戦をみんなで見送りました。(福島さんは前列右から二人目)

に落ち着くまでには、県営住宅の申込に三回落選したという経緯がありました。)

心の元気は体の元気よりもずっと大切です。体は元気でも心がクタクタの人が大勢います。施設長の矢野はいつも言います。「淡路ふくろうの郷は人生最後の場所ではありません。人によっては、一時的避難場所、休息場所なのです。元気になったらまた元の場所に帰って行けばいいのです。」

いのです。」

福島さんは住み慣れた神戸の街でまた一人暮らしを始めます。ひようご聴覚障害者介護支援センターのみなさん、神戸ろうあ協会のみなさん、手話サークルのみなさん、福島さんをよろしくお願いします。福島さん、また何かの行事で会いましょう。時々ふくろうの郷にも遊びに来てくださいなね。楽しみに待っていますね。

(・・・森岡)

モクモクファーム

5月16日(日)、淡路聴覚障害者協会女性部の日帰り旅行にふくろうの郷からも数名が参加し、三重県伊賀市のモクモクファームでソーセイジ作りをしました。



① 体験中
上手く詰められた!



② みんなで分けます。
おみやげでもらった☆



③ 食べます。
う〜ん! おいしそう!

ろう職員に聞く② 介護福祉士試験

第22回介護福祉士国家試験を受験し、合格しました。この専門性を生かし、これからも一人ひとりに合った介護を更に深く学んでいきたいと思えます。

試験を受けるにあたり、僕は集中講座の受講申し込みをしました。その際に手話

通訳の手配をお願いしたので、「予算の関係で無理です」と断られました。それに伴い、淡路聴力障害者センター所長、淡路ふくろうの郷施設長を交えて講座担当者と話し合いの場を持ちました。

結果は、個人派遣という形での手話通訳手配でした。(個人派遣とは、通訳を必要とする本人が、通訳者の手配を行なうということです。)

講義は短時間でしたが濃い内容で、とても勉強になりました。



▲ 立居さんと新居さん
偶然ハッピー☆

もし手話通訳がなかったら内容が掴めないまま、合格できなかったと思います。

やはり、本来なら手話通訳は主催者が望ましいのではないのでしょうか?このような例は他にもたくさん起きています。

聴覚障害者でも気兼ねなく受験できる(社会参加できる)体制を整えていただきたいです。そのためにも僕たちはまだまだ「ろうあ運動」を続けていかなければなりません。

(・・足立)

リレーエッセイ

評議員・萩原数一

「淡路ふくろうの郷」特別養護老人ホーム建設運動が遠い昔のような気がします。

その運動が始まった頃、「社会福祉法人」取得のための運営理念が論議され、決まった方針が、「ひとりひとりを大切に」「ともに生きる」という言葉でした。その当時は実際の事業の背景が見えず、漠然と聞いていた言葉でした。

建設運動というよりも「募金活動」という方がびつたりくる兵庫のろう運動だったと思います。「お金」「お金」が合言葉になっていたような活動でした。理念が、遠い向こう岸に霧がかかってぼんやりしていました。しかし、この霧の先、運動の先には必ず、ろう運動の前進が見えてくると信じ兵庫が一丸となりました。

その根底にあったのは、やはり兵庫県聴覚障害者協会30年来の「夢の実現」という強い願いでしょう。私たちサークルを動かし、兵庫県

民、全国の支援者を巻き込むという大きな運動になりました。

この運動を支援させていた頃、いつも不思議に感じていたのは、どこからどうやってこんな底力が湧いてくるのかということでした。あれから時が過ぎ、少しずつあの当時の疑問や理念の意味などが理解できるようになりました。

去る5月29日、久しぶりに「淡路ふくろうの郷」の施設見学をさせていただきました。とてもきれいに清掃され、入所者の行事報告や手製の作品の展示、ボランティアの支援を受けての畑作



H17(2005)年12月25日
明石市民会館大ホール
「クリスマスチャリティイベント in 明石」
募金5億円達成!発表の瞬間!!

り、ユニットでの生活などを拝見しているうちに思い出したことがあります。それは、あの建設運動当時によく小松さんが、「自分の家のような想いで生活できる施設を造ろう」と繰り返し訴えておられたことです。

その強い想いが現実になっているのです。とても生活感あふれた施設内。そしてもっと驚いたことは職員の方々の優しい温もりがひしひしと伝わってきたことです。施設長をはじめ、事務局、職員の方々のご努力がこの素晴らしい施設を作り上げているのだと感じました。

入所者、職員の方の笑顔に囲まれながら見学を終えた時には、とても清々しい気持ちになりました。

「ひとり ひとりを大切に」「ともに生きる」、この言葉が施設運営の姿になっているのです。

この理念を決定された兵庫県聴覚障害者協会のとてつもない力にあらためて敬服の気持ちでいっぱいになりました。

地域を語る

第18回「ケツケ参り」

千光寺五十八世 岡本宜照座主

時あたかも、六月下旬から七月前半にかけては、淡路島にとって「ケツケ参り」のシーズンである。

言うまでもなく「ケツケ参り」はその地域の田植えが終わったあと、その豊熟を神仏に祈願する大事な行事であるが、その呼称は地区により、人により多様である。

お日待ち、泥おとし、虫おくり等が代表例であるが、それらは「ケツケ参り」に関連した行事の呼称に過ぎない。つまり、お日待ちは田植えの終了を感謝し、豊作を祈願した後、酒盛りを開き、翌朝の日の出を拜んで解散する行事。泥落としは、お日待ちの翌日、田植えの疲れを癒すため、仕事を休み、農具や作業着を洗って、ご馳走を食べ、体を休めること。虫送りは虫害を防ぐ行事であ

る。

さて、これ等の行事は最初期は各農家単位で始まり、次いで地区内の氏神さんや、旦那寺に展開し、ついには高山参りに発展したと考えられるが、その過程は定かではない。

千光寺では護摩堂において、護摩法を修し、観音さまに祈願している。最初のお堂の建立期は不詳であるが、寛文六年(一六六六)阿波峰須賀公の再建であり、その後、五十一世密映、五十六世宜照が修補し現在に至っている。しかし、遺憾ながら、所謂「ケツケ護摩」の創期は不明である。

「護摩法」…ものごとを成就させることを願う真言密教最勝の法である。しからば、この宇宙に人智を超えた大いなるものを認めざるをえない限り、「祈り」は人類共通のものではなかるうか。けだし、科学万能を信じるからこそ迷信であるう。

護摩堂内の様子▼
市販のポストカードより

松亀寺で護摩法要



ふくろう新聞4月号、「第16回・地域を語る」でも紹介されました、松亀寺・護摩法要。

柴灯大護摩の煙を体に浴びながら厄が落ち、福を授かるようにと、みなさん祈っております。

また、大護摩の後、住職さんや檀家さんによる餅まきがあり、入所者の皆さんも必死に餅を集めていました。

「ありがとうございます」と住職さんが手話で話されたときは、皆さん大喜びでした。

(…三谷)

神戸フレンドリーフェスタ☆



ピヨソーン!

5月23日、この日は暴風雨の中の外出でしたが、みなさんが、みなさんの懐かしい友人との再会で移動の疲れも吹き飛んでいる様子でした。

フェスタでは手話落語・日本舞踊・パントマイムがあり、笑ったり、驚いたり、あつという間の2時間でした。

(…沖田)

ふくろう喫茶

6/16(日)・7/18(日)

13:00~15:00

ふくろう喫茶に遊びに来て下さいね

・コーヒー・ココア
・カルピスなど ¥200より

いつもありがとうございます! 今年も開催! 収穫祭&バーベキュー大会

今年のお薦めは
カツオのたたき
BBQなのに。

7月3日(土) 16:00~ 淡路ふくろうの郷

参加費

大人 1500円
小学生 500円
小学生未満 無料



みなさんの
参加して
お待ちしております☆
みごちま

お問い合わせは淡路ふくろうの郷まで。申込締切 6/25日(金)